

令和5年度入学試験問題(前期)

国語

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いて見てはならない。
2. 本冊子には、一から三までの3問題が印刷されていて、合計17ページある。
落丁、乱丁、印刷の不鮮明な箇所等がある場合には、申し出ること。
3. 解答用紙を別に配付している。解答は、解答用紙の指定された箇所に記入すること。所定の箇所以外に記入したものは無効である。
4. 解答の字数を指定している場合、句読点や符号やかっこ等もそれぞれ一文字分にかえる。
5. 解答用紙の指定された欄に、学部名および受験番号を記入すること。
6. 配付された解答用紙は、持ち帰らないこと。
7. 配付された問題冊子は、持ち帰ること。

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

(石川良子『ひきこもり』から考える——〈聴く〉から始める支援論』より)

問一 傍線あゝおの漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

あ 範疇 い 抜粋 う 対峙 え 領(ける) お 然(る)

問二 傍線カゝコのカタカナを漢字に直しなさい。

カ シンコク キ ショウヘキ ク カイマ ケ ケンメイ コ ガン

問三 空欄 a ｝ d に入る最も適当な語句を次より選び、それぞれ記号で答えなさい(それぞれの記号は一度しか使わない)。

ア しかし イ なぜなら ウ したがって エ 加えて オ では

問四 傍線1「自粛生活で強いられている『ひきこもり』の苦しみ」とあるが、その原因として最もふさわしくない選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 外出や人との交流が狭められていること
- イ いつものように収束するのか見通せないこと
- ウ 適切な対応のしかたが分からないこと
- エ 暮らして人生から彩りを奪われること
- オ 生きることへの確信が揺らいでいること

問五 傍線2「当事者たちはひきこもっていることを責められ」とあるが、世間には当事者たちがどのような存在に見えるから責められるのか。世間に当事者たちがそのように見える理由も含め、四十五字以内で説明しなさい。

問六 傍線3「言葉にしようにも言葉にならない当事者の苦悩」とあるが、それはどのようなかを説明したものととして最も適切な選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 心身ともに生存を脅かされる切実な状況ではないことから、「よくわからない存在」として不気味に思われてしまう苦悩。
- イ 自由に出かけることができず、会いたい人にも会えない状況が長く続き、鬱陶しさや寂しさが募ってしまう苦悩。
- ウ コロナ禍での「巣ごもり生活」の経験を通して、「ひきこもり」当事者に対する誤った共感が広がってしまう苦悩。
- エ ひきこもる理由が自分自身でも説明がつかず、「悪いのは自分だ」と自分で自分を責めるしなくなってしまう苦悩。
- オ 「巣ごもり生活」の苦しみは「ひきこもり」の苦しみとは根本的に異なるとされ、世間から置いてきぼりにされてしまう苦悩。

問七 傍線4「当事者はコロナにあまり関心を持たず、世の中全員がひきこもろうと、自分のひきこもりの本質は変わらないと捉えている」とあるが、当事者がコロナにあまり関心を持たないのはなぜか。最も適当な選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 身動きが取れないまま長く過ごし、果てしのない自問自答に疲弊しきっている当事者は、深い混乱に陥っているから。

イ 生きることや自分自身の存在に対する確信の揺らぎを抱える当事者が向き合わなければならないのは、自分自身であるから。

ウ 生きようと必死にもがき続ける葛藤の中にある当事者にとって、コロナによる生死は取るに足らないものと考えているから。

エ 「人に会いたくても会えない。外に出たくても出られない」というジレンマが世の中に共有されることに不安を覚えるから。

オ 外に出ない・人に会わないことが強いられる状況は、当事者のこれまでの状況と大きく変わるものではないから。

問八 傍線X「白眼視」とあるが、これと同じことを指した適当な言葉を、傍線Xよりも前の本文から八字で抜き出して答えなさい。

問九 傍線Y「かれら」とあるが、筆者は「かれら」のような人たちのことを本文全体にわたって何と呼んでいるか。本文から三字で抜き出して答えなさい。

問十 傍線5「暗闇を手探りで歩くなかで、やっと見つけたわずかな光が『ひきこもり』という言葉だった」とあるが、「ひきこもり」という言葉を「光」と捉えることで可能になったことは何か。最も適当な選択肢を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が陥っている状況に名前が与えられたことによって安心することができ、将来に対する不安を覚えなくなった。
- イ 自分がひきこもりようになった時代について振り返ることで、今後の「幸せな人生」について見通しをもてるようになった。
- ウ 自分と同じ境遇にある人を見つけ、かれらと語り合うことで、信じ込んでいたものを相対化して捉えられるようになった。
- エ 自分が大学卒業後の進路選択で挫折したのは、「ひきこもり」が原因であると自分なりに納得できるようになった。
- オ 自分は「ひきこもり」であると周囲に言えることによって自分と向き合うことができ、世間的にも認められるようになった。

問十一 傍線6「コロナ禍のもとで私たちが経験していることは、こうした当事者の葛藤と重ね合わせることができるとはなにか」とあるが、(A)「コロナ禍のもとで私たちが経験していること」と(B)「当事者の葛藤」について、以下の問いに答えなさい。

(1) 筆者は(A)と(B)を「重ね合わせることができる」点を二点、挙げている。筆者は、(A)と(B)がどのような点において「重ね合わせることができる」と考えているか、本文全体をふまえて五十五字以内で説明しなさい。

(2) 筆者は(A)と(B)がどのような点において「重ね合わせることができない」と考えているか。本文全体をふまえて二十五字以内で説明しなさい。

二 次の文章は、藤原氏の氏神である春日大明神（春日大社の祭神）の靈驗を記した『春日権現験記』からの抜粋である。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

（『春日権現験記』より）

(注) ○寛治六年―西暦一〇九二年。 ○太上天皇―白河院。

○金峰山―現在の奈良県吉野郡にある山々の総称。山岳信仰の霊場として知られた。京都からは南都(現在の奈良県奈良市)を経由して陸路で向かう。 ○竜顔―天子(ここでは白河院)の顔。

○春日山―現在の奈良県奈良市にある山。春日大社はこの山の麓に鎮座している。

○大納言師忠―源師忠(一〇五四―一一一四)。 ○中宮大夫雅実―源雅実(一〇五九―一一二七)。

○二条関白殿―藤原教通(九九六―一〇七五)。 ○出仕―朝廷への出勤。 ○影のごと―影のように。

問一 文中の空欄〔 a 〕に入る最も適当な語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

アこそ イぞ ウなむ エは オも

問二 **b** **ず**を文法的に適切な形に活用させなさい。

問三 波線 A「おほせらるる」、B「まゐら」とあるが、それぞれ(1)動作の主体は誰か。また(2)誰を敬った表現か。次の中から

選び、記号で答えなさい(同じ記号を二度以上使ってもよい)。

ア 太上天皇(白河院) イ 人々 ウ 大納言師忠・中宮大夫雅実 エ 二条関白殿
オ 女房 カ 時の人 キ 書き手 ク 読み手

問四 傍線1「例ならぬ御けしきあり」とあるが、なぜ「例ならぬ御けしき」となったのか、簡潔に説明しなさい。

問五 傍線2「幽閑のすみか」とは具体的に何をさすか、答えなさい。

問六 傍線3「恐れをなして、御前を立ち去りにけり」とあるが、(1)立ち去ったのは誰か、本文中から五字以上で抜き出して答えなさい。(2)なぜ「恐れをなし」たのか、四十字以内で説明しなさい。

問七 傍線4「ほほゑみてたまはず」を、主語や対象を補いつつ現代語訳しなさい。

問八 傍線5「春日の大明神の、影のごとしたがひまもりたまひて、かやうに現じたまふ」とあるが、(1)分かりやすく言葉を補って現代語訳しなさい。(2)なぜ「したがひまも」っているのか、I・II全体の趣旨を踏まえつつ簡潔に説明しなさい。

問九 傍線6「まづ子細をたづねきかせたまひてのちぞ、御膳などもまゐりける」とはどういうことか。四十字以内で説明しなさい。

問十 この文章の出典である『春日権現験記』は、鎌倉時代に成立した作品である。鎌倉時代の文学作品について正しく述べたものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 隠者文学の代表作の一つである『徒然草』が、鴨長明によって著された。
- イ 京都と鎌倉との往来を描く紀行文が流行し、『十六夜日記』が著された。
- ウ 源平合戦を題材とする軍記『太平記』が成立し、琵琶法師によって語られた。
- エ 後鳥羽上皇の発案によって、最初の勅撰和歌集『古今和歌集』が編まれた。
- オ 藤原道長の栄華などを描いた『水鏡』が成立し、歴史物語の代表作となった。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい(設問の都合で返り点・送り仮名を省略したところがある)。

著作権の関係上、省略します。

(朱熹『宋名臣言行録』より)

(注) ○公 — 歐陽脩(一〇〇七〜七二二)。宋代の政治家で文章家・歴史家としても活躍した。

○僕馬 — 召使いと馬車。 ○鮮明 — 立派なさま。 ○生疎 — 物慣れないで粗野なさま。

○吏材 — 役人としての素質や才能。 ○設施 — 計画して施行すること。

○便 — 便益・利便・ありがたみ。 ○治迹 — よい政治を行った形跡。

○寛簡 — ゆるやかで簡素なさま。

問一 二重傍線 a ~ d について、送り仮名も含めて読み方をひらがなで書きなさい(現代仮名遣いでもよい)。

問二 文脈から考えて、空欄 **A** ・ **B** に入る発言として最も適当なものを、それぞれ一つずつ選び記号で答えな

なさい。

A

ア 有^{リト}レ^ニ苦^{ガミ}

イ 無^{シト}レ^ニ苦^{ガミ}

ウ 有^{リト}レ^ニ効^{キミ}

エ 無^{シト}レ^ニ効^{キミ}

B

ア 疾^{ヤマヒ}不^レ愈^{イユ}

イ 疾^{ヤマヒ}已^ニ愈^{イユ}

ウ 疾^{ヤマヒ}何^ソ愈^{イユ}

エ 疾^{ヤマヒ}何^ソ不^レ愈^{イユ}

問三 傍線1「応対」について、その内容が具体的に分かるように説明しなさい。

問四 傍線2「良医」について、本文における解釈として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「富医」である者は「良医」となることはできない。
- イ 「貧医」である者は「良医」となることはできない。
- ウ 「富医」であっても「良医」でなければ「貧医」には及ばない。
- エ 「貧医」であっても「良医」でなければ「富医」にはなれない。

問五 傍線3「良吏」について、本文ではどのような心構えを有する者を「良吏」と見なしているか。それを最も端的に示した一文を傍線3以外の本文中から探し出し、始めと終わりの二字を書きなさい(返り点・送り仮名・句読点は除く)。

問六 傍線4「所_レ至、民便、既去、民思」について、言葉を補って現代語訳しなさい。